



会長	小井田和哉	青少年奉仕	石橋 信雄
副会長	村井 達	幹事	深澤 隆
クラブ奉仕		会計	渡辺 孝
会長エレクト	小林 幹夫	会場監督	接待 一雄
職業奉仕	佐々木泰宏	直前会長	道尻 誠助
社会奉仕	橋本八右衛門	副幹事	正部家光彦
国際奉仕	妻神 和憲	会計補佐	紺野 広

例会日 毎週水曜日 12:30 例会場 八戸グランドホテル
 事務所 八戸市番町14 八戸グランドホテル内
 電話 (43) 0608 FAX (43) 0661
 e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp
 http://hachinohe-rotary.org/
 会報・広報委員長 菊地 幹 同副委員長 峯 正一
 同委員 村館 珠樹 同委員 奈良 全洋

国際ロータリーのテーマ — 2021~22 — 八戸ロータリークラブのテーマ

奉仕をしよう みんなの人生を豊かにするために

今できる親睦と奉仕を!

国際ロータリー会長 シェカール・メータ


八戸ロータリークラブ会長 小井田 和 哉

4月は母子の健康月間です

第3222回例会 2022.4.6


▶ゲスト 八戸市健康部保健所すくすく親子健康課
 母子保健グループリーダー
 坂本泰子さん

会長要件 小井田和哉 会長



今月はロータリーの母子健康月間ですので、坂本様より「八戸市の母子保健」について卓話をいただきます。
 だいぶ暖かくなってきました。関東ではもう桜も散り始めているところもあるようです。八戸はまだですが、三八城公園の開花予想が4月19日、満開予想が4月23日頃と出ていました。


幹事報告 深澤 隆 幹事



○ロータリーレートのお知らせ 4月1日より、1ドル=122円

委員会報告

親睦・会場委員会 夏川戸 斉委員長




○ニコニコボックスの報告
 ・誕生祝 増田 敏 広瀬知明さん
 ・奥様誕生祝
 山村和芳・橋本八右衛門さん
 橋本八右衛門さん 春の交通安全週間はじまりました。飲酒運転は絶対やめましょう。

夏川戸 斉さん 坂本さん本日はよろしくお願ひします。

小井田和哉・佐々木泰宏・道尻誠助 } ニコニコ
赤澤栄治・廣田 茂・渡辺 孝さん } デー

職業奉仕委員会 佐々木泰宏委員長



4月27日に職場訪問例会を企画しています。場所は共同物流サービスという八戸卸センターで運営している物流会社です。市内に7か所、岩手県金ヶ崎、仙台とあちこちに物流センターをもっていて、今回は八戸市内の第2物流セン

ターを見学する予定です。AIを駆使したロボットアームや稼働している自動走行機を見られますので、普段なかなか見ることのない、立ち入ることのない場所だと思いますので、ぜひこの機会にご参加をお願いします。

ロータリー財団委員会 石橋敏文委員長



ます。

先ほど幹事からもロータリーレートのお知らせがありました。今年もロータリー財団の寄付がまだ滞っているようですので、宜しくお願いします。

米山奨学委員会 山田慶次委員長



米山委員会は昨年10月の米山月間で米山はこういうすばらしい活動をしているということをご理解していただき、それであれば寄付をしようということになるのですが、今のコロナでそれができない。できない理由は弘前に米山留学生が来ているのですが、その方に来ていただいて理解を深めようということにしましたが、今のコロナの状態でできない。

米山が始まった歴史もありますが、ロータリアンとして世界から日本に来ている子どもたちに支援活動をしている資金を皆さんにお願いします。6月までに寄付をよろしく願います。

築館智大ガバナーノミニーより報告



お願いが3つあります。

- ①2830地区でゆるキャラを作るようにしたいと思っています。わたしの年度では公共イメージ委員会の100万円の予算の中で、マスコットキャラ、ゆるキャラの着ぐるみを作りたいと思っています。今インターアクトクラブの方々にご案内を差し上げて募集をかけ、インターアクトクラブの高校と提唱ロータリークラブに郵送しました。当クラブも八戸工大第二高等学校インターアクトクラブを抱えていますので、夏堀委員長にコミュニケーションをとっていただけて盛り上げていただきたいと思います。
- ②地区大会の際にガバナーが予算100万円はどこかに何かを寄付しています。わたしは八戸で何かをやろうと考えるよりも皆さんに公募したい。八戸に限らず青森県全部で、知り合いのNPO法人などの奉仕団体をご存じの方がいらっしゃれば、その方々に応募いただいて審査の上、その方たちに100万円分の何かを寄贈することをしたいと思います。
- ③ガバナー年度ではいろんな行事がたくさんあります。各担当地区幹事の方がいらっしゃいますが、各クラブにホストクラブのお願いに歩いています。これからいろいろなクラブの方々から、わたしもこれに参加したいという方が出てくると思いますので、わたしの年度では皆さん一緒になって地区全体で盛り上がっていきたくと思っていますので、宜しくお願いします。



「八戸市の母子保健」

坂本 泰子 さん



八戸市総合保健センターは田向に令和2年にできました。八戸市保健所は総合保健センターの中に入っています。

健康部保健所：保健所の中

には保健総務課、保健予防課、衛生課、健康づくり推進課、すくすく親子健康課、こども家庭相談室などたくさんの課が入っています。主に保健予防課が今話題の新型コロナウイルス感染症の対策、予防および蔓延防止に関することを

職員が総出で必死になって対応業務を日夜やっているとところです。土日ほとんどなく、市内の流行になっている方々の支援に当たっている課が保健予防課で、保健所内の関係課全部が保健所業務としてコロナ対策にもあたっています。

わたしはこの4月からすくすく親子健康課に異動、3月までは健康づくり推進課の中で母子保健事業を行っていました。4月からは母子保健の部分切り離され、新たに新設となりました。わたしが子育て世代包括支援センター事業を立ち上げたり、いろいろ事業の方をやっていたので、本日ここにお邪魔してお話しさせていただいています。また、福祉事務所所管の子ども家庭相談室は子ども家庭総合支援拠点を持ち、子供虐待、DVなどを担当している課で、ここは福祉事務所所管になっていますが、本庁から移ってきて、同じ部内、同じフロアで仕事をしています。

これは八戸市の人口動態、年齢3区分別の人口構成です。平成29年の人口233,002人、年少人口は28,317人、12.2%。65才以上高齢人口は66,143人、28.4%でした。令和3年度は人口224,550人、8,452人減少しています。年少人口25,702人、11.4%。5年間で2,615人減っています。高齢人口は70,018人、31.2%。3,875人増えています。年々少子高齢化が進んでいます。

出生数は平成22年は1,869人生まれました。年々子どもの出生数は減っていて、平成30年には1,604人、令和元年は1,460人、令和2年1,387人、令和3年には1,287人と1,300人を切りました。約100人弱くらいの子どもの出生数が減っているのが現実です。合計特殊出生数ということで、15才から49才までの女子の年齢出生数を合計したもの、1人の女性が一生の間に産む人数についても1.4代をキープしていたのが令和2年には1.31まで落ちています。今まで県よりも高い数値を示していましたが、令和2年においてはガクンと下がってしまい、1人の女性が一生の間に産む数の目標をわたし共は1.9人、国は1.8人と思っていますが、1.4も切り1.31人。出生数

を見ているとコロナの影響もあるのかなと思いますが、何とか一人でも出生数が増えることを望んでいる現実があります。只今は少し前の資料をご説明しましたが、今後も人口減少および少子高齢化の加速が推測されていますので、何とかこの現状を踏まえつつ、わたしたち母子保健の活動をしていきたいと考えています。

こちらの資料は国の資料の動向で、子育て世代包括支援センターの全国展開の資料です。ライフスタイルや経済社会の変化の中で、子育て世代を身近な地域で支える仕組みを整備しようということで、国ではこの仕組み作りを検討してきました。従来より母子保健と子育て支援の両面から多様な支援の充実に努めるようにして、それぞれ事業をしておりましたが、センターの運営というところで、この地域全体を日々の暮らしの中でみながら、子育てを何とかサポートしていくということで、妊産婦および乳幼児およびその保護者の生活の質の改善、向上、胎児から乳幼児にとって良好な環境の維持を図ることが重要とされています。

国では妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を提供できることを目指して、子育て世代包括支援センターを設置しなさいということで、母子保健法に平成29年4月1日付で施行されています。法律の中では母子健康保険センターと定義されていましたが、全国展開を目指すようにということで各市町村はこれに取り組んでいるところです。県内40市町村がありますが、2020年度までにほとんどの、あと2、3を残した市町村でセンターが設置されていると県から聞いています。

具体的には子育て世代支援包括支援センターは妊産婦、乳幼児の支援に必要な実情をまず把握しなさい。そして妊娠、出産、育児に関する相談に応じ、必要な情報を提供し、その助言や保健指導をしなさい。支援プランを策定して、保健医療機関、福祉関係などの連携、連絡、調整をとる。これが一人一人にやっていきなさい。そのマネジメント機能が子育て世代包括支援センターの役割ですと位

置付けられています。

さらには度重なる子どもの虐待事案を受けて、平成28年の児童福祉法の一部改正をする法律というところで、母子保健施策を通じた児童虐待防止対策のさらなる強化を図るようというところで、妊娠届け出時から乳幼児の健診等において児童虐待の予防やその早期発見にしるようにしなさい、というところが母子保健上でも明記され、随時各種事業や対応の中で虐待に視点を置きつつ、各種事業が展開されるようになりました。

また「健やか親子21」ということで国で活動していますが、これは関係者が一体となって母子保健の国民運動計画を作って、取り組みなさいというところで母子保健の取り組みの方向性とその目標や指標を示しつつ、その目標値に向かって展開をするものです。現在は「健やか親子21」は第二次の計画の最中で、平成27年から令和6年度までの事業となっています。「すべての子どもが健やかに育つ社会の実現」そのためには重点施策として、育てにくさに寄り添う支援、妊娠期からの児童虐待防止対策に重点課題を置きつつ、切れ目のない妊産婦・乳幼児の保健対策。学童期、思春期から青年期に向けた保健対策、子供の健やかな成長を守り、育む地域作り。これを基礎基盤課題としながら目標値、指標を定めて母子保健事業をしていきます。

八戸市も各種事業などでこれらの指標に乗りながらやっているところです。田向の八戸市子育て世代包括支援センターは平成30年10月に課の中にセンターを設置しています。右側は誰でも気軽に相談できるようにと、個室も少し整備して保健師の他、助産師も専門職として配置しています。愛称は“ハチマム相談”ということで、八戸のママたちが相談できる場所、サポートする職員がいる場所ということです。最近ハチマム相談に来ましたということで常連客も増えているということです。

母子手帳を出しながら、ハチマムサポートブックということで、各種情報誌を入れた冊子を差し上げ、母子手帳交付時に説明しています。母子手帳を交付される妊婦にはいろい

ろな背景があります。すべての妊婦に妊娠・出産・子育てに対する思いを伺っています。かわいい子が生まれてくるといいな、無事に産みたい、夫婦で一緒に育てたい、妊婦の幸せな思いがたくさんあふれている方が半分以上です。

わたしたちは先ほどらい言っている支援プランを「ハチマム応援プラン」として、一人一人に寄り添った支援プランの作成に努めています。どういうことかと言うと、先ほどお話したような特に問題がないような方は母子保健事業のお勧め、妊婦健診をいつの時期に受けましょう、歯科検診を受けていきましょうという説明だけに終わる方もいます。一方で複雑な背景のある方はサポート事業として保健師の訪問を早めに組み入れたり、課題を整理したり、利用できる子育てサポート事業などを提案していきます。その方は少しでも不安が軽減して、妊婦本人が今後どのようにして妊娠出産に向かっていくといいのかを考えていただくようにじっくりと相談します。相談をする時間は単純な方だといろいろな事業説明だけで窓口に30分くらい座っていますが、複雑な方では1時間以上説明やいろんな相談を受けている場面が多くなります。

お手元の資料に、すすく親子健康課、子育て世代包括支援事業の全事業が載っています。母への支援と子への支援の2通りに分かります。母子手帳をもらう時から支援プランを作り、その後は赤ちゃん訪問をします。産婦さんへ育児の気持ちを聞いて、何か困ったことはないかということで二段階でプランを確認しつつ、本人の支援に努めています。それ以外は妊娠期の支援、産後の支援が母への支援になります。

子への支援は赤ちゃんが生まれると出生届は出しますが、こちらの課へは出生通知書ということで赤ちゃんが生まれた情報をいただき、その後、赤ちゃん訪問、乳児健診の受診票の交付の流れになり、乳幼児健診や各種相談の説明をしていきます。また今年度は保健予防課のほうから移管された小児慢性特定疾患の事業や未熟児療育医療事業もすすく親

子健康課に移ってきました。各種事業がたくさんありますが、これらを説明しながら適時適齢時期に受けられるように親御さんに説明しながら、子育てをしてもらっている流れとなります。

- **まず産前産後サポート事業**：妊娠中から産後にかけての支援。妊娠期にわたしたちが母子手帳交付から赤ちゃんが生まれるまで関われなかったということで、妊婦への電話支援、妊娠8～9ヶ月の妊婦に電話による支援をして、妊娠あるいは出産への悩みなどを伺いながら不安の軽減や説明をしています。
- **妊産婦交流会**：孤立感の解消や仲間作りとして月1回集いを開いています。
- **産前産後ケア事業**：市内の助産院に事業委託をしており、産婦の心身のケアということをお願いして、事業を展開しています。
- **産婦健康診査事業**：令和2年4月から産後うつや早期発見や新生児の虐待予防で、産後2週間、産後1か月健診の2回、メンタルヘルスチェックを行いながら、市内の医療機関等と連携して個別支援を実施するものとして展開しています。

このように妊産婦への支援を強化してケアにあたっています。

子ども・乳幼児への支援：まずは赤ちゃんが生まれるとすべての赤ちゃんのいる家庭に訪問することを目標に、毎日に頑張っています。このコロナ禍においても感染対策あるいは感染症の有無をしっかりと確認しながら、訪問させていただいています。ただ中にはコロナで外部の方と会いたくないと言われる方もいて、その方は時期をずらしながら訪問をして、お母さんたちの思いや困ったことがないかということで訪問に入っているところです。

乳児健診、幼児健診は今はコロナの影響で1歳半、3歳児健診が一時止まって、集団なので2か月ほど開催を見合わせ、延期をかけたのですが、3月末から再スタートしたところです。これも感染対策、接触者、できるだけ動かないでその場所に留まることに四苦

八苦していますが、何とか対象者の数を制限しながら再開をかけているところです。ただどの健診においても、対象時期があり、3歳が4歳になってしまう、1歳が2歳になってしまうというところのぎりぎりの方も出てきたので、今あわてて健診の再開をかけたところでしたが、なかなかコロナとの兼ね合いがあり、苦労しながら各種事業をやっているところです。

またわたし共は各種発達相談もしています。今は情緒の相談やことばが遅いなど、課の中に心理士もいるので、心理士のサポートを受けながら親御さんたちの相談ごとに合わせて対応しているところです。4月から何とかこの事業もスタートしました。コロナの時期は1対1での相談をやっていましたが、4月からは従来通りできるかどうかを検討し、考えていくところです。ただ子どもの発達、発育については保育園や幼稚園のほうでもしっかりと見ていただけるようになってきています。

今3歳児健診を受ける子がちょっと気になる、心配というところは保健師と連絡を取りながらお母さんたちの思いやつなぎを重視しながらなんとか携わっているところもあります。乳幼児についても切れ目なく、継続的に支援できるように、一人一人の管理や相談に応じることができるように何とか担当保健師は努めているところです。

八戸版ネイボラは令和2年8月に総合保健センターに移転したことに合わせて、新たな相談支援体制を作りました。わたし共がいる子育て世代包括支援センターは3階、同じフロアにこども家庭相談室、2階の教育委員会に子ども支援センターがあります。この3部署が連携を取りながらやる仕組みです。

例えば赤ちゃんを連れて相談に来たお母さんが小学校のお兄ちゃんの不登校の相談をしたとすると、2階の子ども支援センターの相談員が3階に出向いてくれる。また産婦さんの夫のDVのことで困っている、どうしようとなると子ども家庭相談室の相談員と一緒に相談に乗るという仕組みを作ったところです。保護者の方が2階です、そちらです

と動かないように何とか3部署が連携しています。保健・福祉・教育の3か所の3部署が一体的に支援する相談支援体制が八戸版ネイボラで、各専門職が連携を取りながら対応しましょう。月1回3部署での会議や情報共有というところで連携を図っているところです。

八戸市の子育て世代包括支援センターの特徴は、①全妊婦の面接および全乳児家庭への訪問を目標に支援しているところです。②また妊娠期から安心できるように地区担当保健師制度をとっています。確実にその支援者とつながる関係づくりに努めています。③保健師のほか看護師、助産師、栄養士、心理士というのが課内にいるので、多職種による支援を心がけて、多問題、養育の支援が必要な方への支援の充実に努力しています。④市内の産婦人科、医療機関と年1回情報交換会を開催、連携を密にとり関係機関との連絡調整というところにも図っています。⑤八戸版ネイボラとしてこの3部署と連携し、一体的な相談支援体制を充実していく。これが八戸市子育て世代包括支援センターの特徴です。そして、今求められる子育て支援は妊産婦・乳幼児・保護者の一人一人に寄り添った妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を関係機関と連携しながら行っていけるようにすることかと思っています。

その他の事業として、八戸市女性健康支援センター事業があります。中核市以上の事業として平成29年1月から実施しています。女性健康支援センターを設置して、思春期から更年期の女性の健康相談を保健師、助産師が行っています。また3月の女性の健康習慣に合わせた女性の健康講座を開催しています。同じように中核市以上の事業として不妊専門相談センターを設置しています。不妊専門相談センター事業は市内の医師会、産婦人科医会のご協力のもと、産婦人科医師による不妊専門相談を月1回行っています。当事業は八戸圏域連携中枢都市圏事業として圏域7町村の方の相談も受け付けましょうと動いています。

特定不妊治療費助成事業も中核市事業として取り組んだところでしたが、今の4月より

保険適応になると国が良かったですので、高額医療費のかかる顕微授精や体外受精に要する費用負担の経済負担は軽減されていくのかと考えています。不育症検査費用の助成事業も八戸市で令和3年10月から実施していましたが、これも先進医療として保険が効かない流産検体を用いた染色体検査の費用負担も、この4月から保険適応になりましたので、不育症の方も経済負担が減るものと思います。

ハイリスク妊産婦アクセス支援事業も平成29年に県に事業に合わせて実施しています。周産期母子医療センターがある青森県立中央病院、弘前大学医学部付属病院、岩手医科大付属病院の3か所に妊産婦が通った場合の交通費および宿泊費の一部の助成をすることで取り組んでいます。

今国では子ども家庭庁が令和5年4月1日に設置して、各部署に分かれている子ども政策に関する総合調整権限を一本化しようということ考えています。子どもの視点に立った政策を立案、子どもの権利を保障して子どもを誰一人取り残さず、健やかな成長を社会全体で後押しするのが狙いです。これに合わせて児童福祉法の一部を改正する法律案が今、閣議決定し、国会に提出されています。これによって子ども家庭総合支援拠点、児童福祉と子育て世代包括支援センター、母子保健の組織を見直し、全ての妊産婦、子育て世代、子どもへかかる一体的な相談支援を行う機能を有する機関とする「子ども家庭センター」の設置に努めること。これは令和6年4月までに市町村への努力義務との文書が今入ってきていますので、今お話ししました子育て世代包括支援センターもまた児童福祉の部署と一緒に体制整備をして、今後また新たな内容等を考えていくことになるのかと思っています。

妊産婦・乳幼児に関する相談は「すくすく親子健康課」のほうにお願いします。4月に課名が変わって間もないのですが、皆さんに早く覚えていただけるようにスタッフ共々考えていきたいと考えていますので、宜しくお願いします。